

2020年度事業報告



活動レポート

①福祉相談事業

困りごと相談(自主事業)

活動の想い

安心して暮らせる地域を作りたい！

直接の成果

悩みや困りごとを抱えた人が相談をする。

短期成果

必要な時に相談できる関係ができる。

長期成果

問題解決へ向け、自ら行動が起こせるようになる。

【担当責任者】 法人事務局として実施

【活動概要】

暮らしにかかわる相談を法人全体として相談者の気持ちに寄り添う傾聴を中心に実施する。必要により関係機関への紹介を行います。

【活動実績・得られた成果】

法人全体で行う困りごと相談業務としておこないました。フードバンク事業の支援者を中心に月に数回の相談がありました。いつでも相談ができる関係づくりを体制づくりに実施しました。

困ったときに気軽に相談できる場や機会、日頃からの関係づくり。

②高齢者・障害者に対する地域生活支援サービス事業

タイムケア事業(自主事業)

直接の成果

スタッフが生活の援助を始める。

短期成果

生活の連続性が保たれたり、やりたいことができ始める。

長期成果

必要な時に支援や手助けを受けながら自分らしい生活が継続している。

【実施回数】 201回(163.5時間/年)

【活動概要】

介護保険対象者および障害福祉サービス対象者に対し、制度のルール等の理由で対応できない部分に柔軟に対応する事業です。

【活動実績・得られた成果】

介護保険対象者及び障害福祉サービス対象者に対し、制度のルールなどで対応できない部分に柔軟に対応しています。高齢者では主に介護保険では対象にならない大掃除や草取り、水やり、移動支援を中心に行いました。障害者ではホームヘルプなどの隙間を埋めるサービスとして実施しました。

分かち合い事業(自主事業)

直接の成果

住民スタッフが生活のお手伝いを始める。

短期成果

生活の中の困り事が改善し始める。

長期成果

必要な時に支援や手助けを受けながら自分らしい生活が継続している。

【実施回数】 1.0時間/年 2回

【活動概要】

介護以外のちょっとしたお手伝いについて、住民同士の助け合いで柔軟に対応する事業です。

【活動実績・得られた成果】

本年度については、コロナウイルス感染症の影響もあり、優先度を下げた実施となったため、実績はほとんどありませんでした。

③相談ケアマネジメント事業

ゆめじろう居宅介護支援事業所

(介護保険居宅介護支援事業)

活動の想い

見慣れた風景や環境の中、その人らしい暮らしができることを応援していきたい

対象

町内在住(近隣町を含む)
高齢者と家族

直接(～1か月)の結果

生活や介護に関する困りごとや、暮らしにくさに対して、サービスの利用や暮らし方について相談できる。

短期(～3か月)の成果

問題解決のための取り組みや、サービス利用が始まる。相談内容に合った機関との関係づくりが始まる。

中期(～1年)の成果

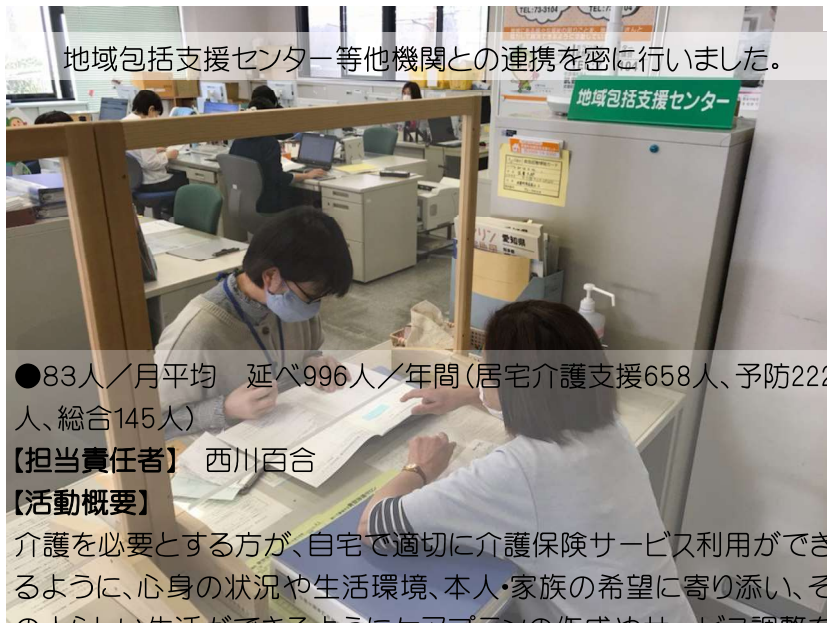
問題解決のための取り組みや、サービス利用が始まる。相談内容に合った機関とつながっている。

長期(～3年)の成果

自分らしい生活が支援を受けながら継続し、ひとりではないと感じながら生活ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続けられる。



●83人／月平均 延べ996人／年間(居宅介護支援658人、予防222人、総合145人)

【担当責任者】 西川百合

【活動概要】

介護を必要とする方が、自宅で適切に介護保険サービス利用ができるように、心身の状況や生活環境、本人・家族の希望に寄り添い、その人らしい生活ができるようにケアプランの作成やサービス調整を行います。暮らしにくさなどの相談の場合には、介護保険制度や他機関の案内や提案を行っています。

【2020年度活動目標】

他機関の機能を理解し連携に努め、迅速に必要な窓口につなぐことができることで、ゆめじろうへつながる人達が安心して暮らしができるように支援できるようスキルアップを目指す。また、ケース検討会を通してさまざまな制度理解を深め、「断らない相談窓口」としての機能充実を図っていく。実績確保のためにも「断らない」ことを前提に積極的に受け入れ、件数増加・増収を目指していく。

【活動内容・得られた成果】

施設入所や転居などの対応、ターミナルの方の担当が多い印象の一年となった。一定数の新規受け入れがあり、年明けより半田居宅からの受け入れを行い、町内サービスのみに限らず、他市町のサービス事業所との関わりも新たにもてるようになったと同時に、増収にもつながった。入院時の情報提供や退院時の病院との連携など、きめ細やかな対応による加算の取得なども増収につながり、スムーズな在宅生活への移行の支援も大切にしてきました。引き続き必要な時に必要な支援が届けられるように努めていきたいと思っています。



つながることで安心して暮らせる暮らしのお手伝いをしています！

ゆめじろう相談支援事業所

(障害者総合支援法)知多南部相談支援センター(委託)、一般相談支援事業、特定相談支援事業、(児童福祉法)障害児相談支援事業



コロナ禍でも地域課題解決へ向けての取り組みを止めない！

活動の想い

障害のある人と家族が安心して暮らせる社会や地域を作りたい！

対象

武豊町・美浜町・南知多町
在住の障害者と家族

活動内容

障害児・者の生活・サービスに関する相談援助。
協議会の運営。

直接の結果(～1か月)

相談を行い、必要な情報が得られたり、サービス利用が始まる。

短期の成果(～3か月)

必要に応じ相談ができ、生活が安定しはじめる。

中期期の成果(～1年)

新たな課題が出てきても、相談することで安心できる。

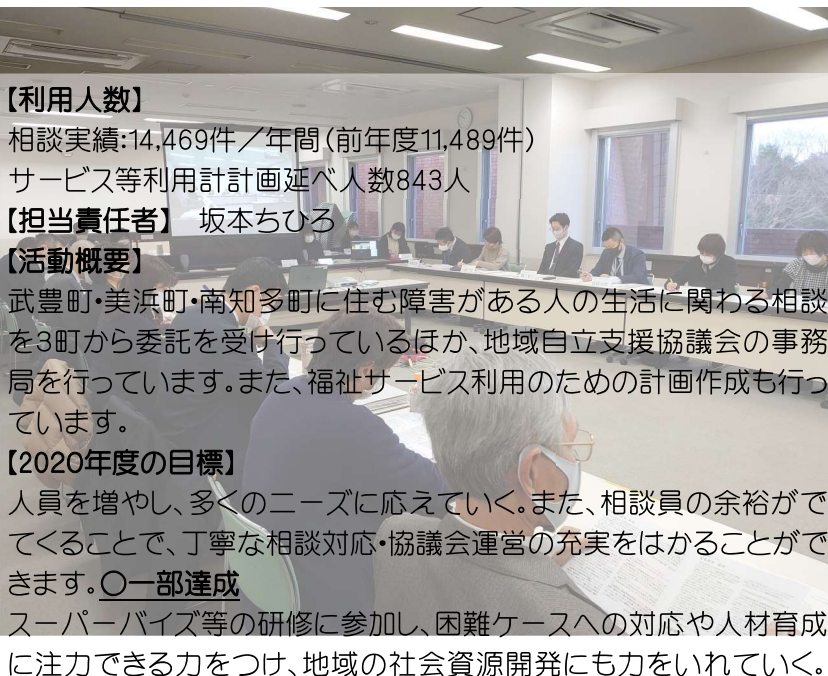
長期(～3年)の成果

住民の障害理解が深まり、サービス以外の資源を活用しながら自分らしい生活ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

コロナ禍での知多南部自立支援協議会の様子



【利用人数】

相談実績:14,469件/年間(前年度11,489件)

サービス等利用計画延べ人数843人

【担当責任者】 坂本ちひろ

【活動概要】

武豊町・美浜町・南知多町に住む障害がある人の生活に関わる相談を3町から委託を受け行っているほか、地域自立支援協議会の事務局を行っています。また、福祉サービス利用のための計画作成も行っています。

【2020年度の目標】

人員を増やし、多くのニーズに応えていく。また、相談員の余裕がでてくることで、丁寧な相談対応・協議会運営の充実をはかることができます。○一部達成

スーパーバイズ等の研修に参加し、困難ケースへの対応や人材育成に注力できる力をつけ、地域の社会資源開発にも力をいれていく。

△引き続きの課題

【活動実績・得られた成果】

正規職員が1名増員。12月～は時短職員の更なる増員をすることができました。また、セルフプラン対応者を計画に移行していくことができました。増員スタッフへの同行支援を丁寧に実施し、モニタリングを増やすことができ、結果として個々のケースに丁寧に対応することができました。一方で、困難ケースへの対応は難しく、解決の糸口を見つけることができず相談の力量と地域資源の不足が明らかになりました。個々の相談員のスキルアップとフォロー体制をどう確保していくか課題が残りました。

コロナ禍で、外部研修が少ない中オンライン研修もあり参加することができました。参加のしやすさのある一方、音声の途切れ等ウェブ環境の問題も今後改善が必要。

南部3町との基幹相談支援センター設置検討会に参加し、令和3年度1月の開始へむけ準備を進めている。今後は事業所外の困難ケースへの支援体制確保が必要。

協議会については、コロナ禍で、サロン・研修など開催ができなかったところもあるが、オンライン会議への切り替え等工夫をし実施できた。コロナ禍でも地域づくりを止めない工夫が必要。

④ホームヘルプ事業

ゆめじろう訪問介護事業所

(介護保険訪問介護事業、介護予防訪問介護事業)



安心できる関係づくりは日々の積み重ねから！

活動の想い

住み慣れた町で暮らし続けることを応援したい！

対象

町内在住高齢者

活動内容

介護保険サービスとして高齢者の生活を支えるための訪問支援。

直接(～1ヶ月)の結果

ヘルパーが家庭に入り生活の援助を始める。新たな困りごとや課題が明らかになる。

短期(～3か月)の成果

ヘルパーの援助を受けながら生活をする。

中期(～1年)の成果

出来ることは自分で、できないことはヘルパーと一緒にしながら生活の質が向上する。

長期(～3年)の成果

自分らしい生活がヘルパーの援助を受けながら継続し、生きがいや目標が見つかる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



お互いにマスクをつけてのお付き合い！

【担当責任者】 尾溝悠輔

【事業概要】

利用者さんの日常生活をお手伝いさせていただいています。住み慣れた自分の家(地域)で過ごしたいという利用者さんに寄り添い、生きていて良かったと思ってもらえる支援を心がけています。

【2020年度の目標】

新規(身体介護など)や訪問Aの受け入れに対して、今まで以上に質・内容を充実させるために、研修会への参加を積極的に行っていく。○一部達成
他機関(訪問リハビリ事業所・訪問介護事業所)などへの連携も今まで以上に行っていく。◎達成！

【活動実績・得られた成果】

訪問Aの実績と収入については去年度から大きな変更なく実施できた。介護については、入院や入所・亡くなった方もいたことから減少してしまった。今年度から取り組み始めたケアマネジャーに新規のご利用者様の依頼募集を行ったことにより、訪問型独自サービスの依頼が多く来た(中には介護の方もいた)。訪問型独自サービスについては、昨年度に比べ208.3時間(予定)増加。介護については352(予定)時間減少した。新型コロナウイルスのため、研修会に出向くことが積極的に行えなかった。また、会議等の機会も減ったが、その分他事業所の方への連絡(電話など)を密に行うことにより、サービス低下について克服できた。ヘルパー一人一人が、現場において瞬時に判断することができるようになり、その場で訪問看護事業所に連絡を取り指示を得るなど質においても意識においても向上した。

ゆめじろう居宅介護等事業所

(障害者総合支援法居宅介護等事業)



行動障害の方へも対応できる町内唯一の事業所です！

活動の想い

障害のある人の社会参加や挑戦を寄り添って応援したい！

対象

町内在住(近隣町を含む)
障害者

活動内容

自宅へヘルパーが訪問し、障害児・者の地域での生活を支えると同時に生活課題を明確にして課題解決のための支援を行う。

直接の結果

ヘルパーが家庭で生活の支援をしたり、社会参加支援を始める。

短期(～3か月)の成果

ヘルパーが家庭で、日々の生活支援に加え、課題解決のための支援を受け始める。

中期(～1年)の成果

継続した支援を受け続けていける。ヘルパーの支援を受けながら課題解決力・生活力が付く。

長期(～3年)の成果

自ら課題解決に向かっていく力が付く。また、必要とする支援を発信できるようになる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



野外の芝生広場でサッカーをする利用者さんとヘルパー

【根拠事業】居宅介護等事業、行動援護、移動支援

【担当責任者】 尾溝悠輔

【活動概要】

個人のニーズに合わせ、マンツーマン対応で障害のある方の日常生活・余暇活動を支援しています。

【2020年度活動目標】

現在利用していただいている利用者様の支援内容・時間などの見直しを行い、支援の質の向上を目標とする。◎概ね達成
行動障害のある方への派遣数の増加。◎達成！

【活動内容・得られた成果】

延べ634人／年間 延べ2733回／年間 延べ4809時間／年間

移動支援は、新型コロナウイルス感染症への不安や、2度の緊急事態宣言により、時間短縮、キャンセルが相次いだため減少しています。一方、居宅介護、行動援護についてはヘルパーの数が増えたこと、移動支援のキャンセルになった分を当てることにより、入浴介助や行動障害のある方への派遣数を増やすことができました。

新型コロナウイルスにより、場所や公共交通機関の制限があり、これまで行わなかった活動を行う機会も多くあり、支援の幅を広げることができました。また、人員が増えたことで、行動障害のある方への派遣数は1年を通して増加しています。

⑤ デイサービス事業

ひるじろう (生活介護)

活動の想い

どんなに重い障害があっても、その人らしい自己実現ができる活動や居場所が必要だ！

対象

町内在住(近隣町を含む)の重度障害者

活動内容

重度障害者に対し、それぞれの能力や意向に応じた日中の活動と居場所の提供を行う。

直接の結果

送迎等の支援を受けながら自分のペースでひるじろうに通い、活動に参加する。家族以外の人とのかわりが始まる

短期(～3か月)の成果

活動に参加するうちに自分の強み弱みが分かってくる。得意な活動にはやりがいをもてるようになる。

中期(～1年)の成果

得意な活動に磨きをかけ、やりがいを持って取り組めるだけでなく、息抜きもできるようになる。

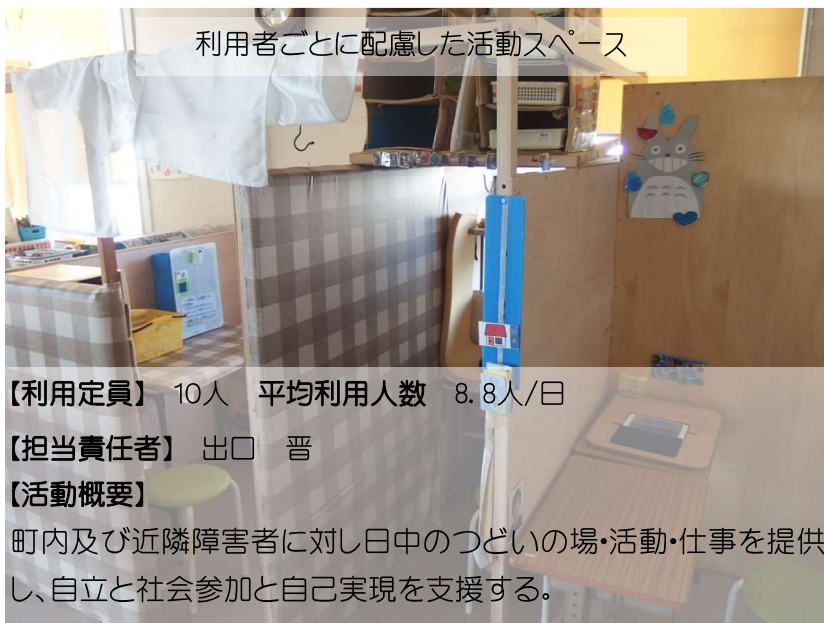
長期(～3年)の成果

やりがいをもって行える活動を共に行う仲間ができひるじろうが大切な居場所となる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続けられる。

利用者ごとに配慮した活動スペース



【利用定員】 10人 平均利用人数 8.8人/日

【担当責任者】 出口 晋

【活動概要】

町内及び近隣障害者に対し日中のつどいの場・活動・仕事を提供し、自立と社会参加と自己実現を支援する。

【2020年度活動目標】

多様なニーズにしっかりと対応できるよう、一人一人の強みを引き出し活かせる活動の創出を行う。◎達成！

また、家族の介護負担減少のため休日が4日以上続かないよう祝日の開催を引き続き行っていく。◎達成！

地域生活支援拠点については、定期的の実施し、緊急時にも安心して利用いただけるよう体制を整えていく。○一部達成

【活動内容・得られた成果】

これまで午後よりヤモリの家にて活動していたグループが、ひるじろう内で活動できるようになったことに合わせてコミュニケーション支援のための活動(PECS)を行い一定の成果が得られました。また、活動へのモチベーションとして好子(お菓子)の活用を広く行いました。

行動障害のある人やそれ以外の人と同じ空間で安心して活動できるよう、個別スペースのリメイクを行いました。

一人一人に合った活動創出の一環として、漢字学習やスキャン作業を新たに始めました。休日の数が増える中で、スタッフの働き方を工夫し、サービスの連続休暇が4日以上にならないよう休日の開催を行うことができました。地域生活支援拠点として、体験的宿泊を4日実施しました。



行動障害のある人が安心して通える事業所です！

押し ひるじろう (就労継続支援B型)



チキンカツが空前の大ヒット！

活動の想い

障害のある人の「仕事がしたい」「社会の役に立ちたい」という思いを応援したい！

対象

町内在住(近隣町を含む)の仕事をしたい障害者。仕事ができる可能性があるのに十分に力を発揮できていない障害者。

活動内容

障害者に対し、仕事を通じて社会参加・社会貢献をする場の提供を行うと共に、それに対し工賃を支払う。

直接の結果

ひるじろうへ通い、コロッケ作り・販売、整備事業など自分に合った仕事に取り組む。

短期(～3か月)の成果

ひるじろうに慣れ、仕事をしながらの生活リズムができる。

中期(～1年)の成果

お金に関心が持てるようになる。目標工賃1万5千円/月の達成

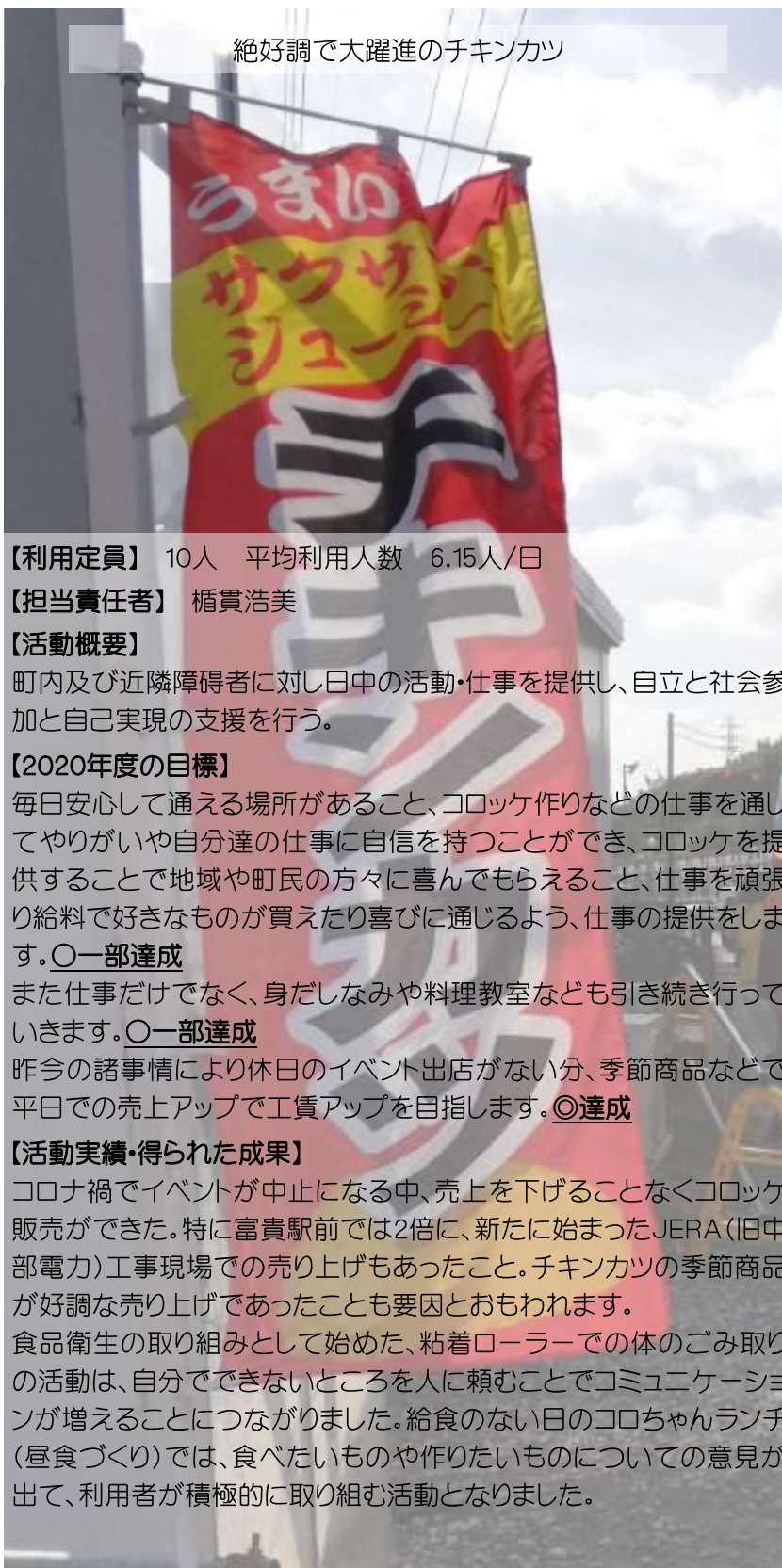
長期(～3年)の成果

工賃だけでなく、仕事そのものにもやりがいや誇りが持てるようになる。目標工賃2万円/月の達成

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

絶好調で大躍進のチキンカツ



【利用定員】 10人 平均利用人数 6.15人/日

【担当責任者】 楯貫浩美

【活動概要】

町内及び近隣障害者に対し日中の活動・仕事を提供し、自立と社会参加と自己実現の支援を行う。

【2020年度の目標】

毎日安心して通える場所があること、コロッケ作りなどの仕事を通してやりがいや自分達の仕事に自信を持つことができ、コロッケを提供することで地域や町民の方々に喜んでもらえること、仕事を頑張り給料で好きなものが買えたり喜びに通じるよう、仕事の提供をします。○一部達成

また仕事だけでなく、身だしなみや料理教室なども引き続き行っていきます。○一部達成

昨今の諸事情により休日のイベント出店がない分、季節商品などで平日での売上アップで工賃アップを目指します。◎達成

【活動実績・得られた成果】

コロナ禍でイベントが中止になる中、売上を下げることなくコロッケ販売ができた。特に富貴駅前では2倍に、新たに始まったJERA(旧中部電力)工事現場での売り上げもあったこと。チキンカツの季節商品が好調な売り上げであったことも要因とおもわれます。

食品衛生の取り組みとして始めた、粘着ローラーでの体のごみ取りの活動は、自分でできないところを人に頼むことでコミュニケーションが増えることにつながりました。給食のない日のコロちゃんランチ(昼食づくり)では、食べたいものや作りたいものについての意見が出て、利用者が積極的に取り組む活動となりました。

こじろう (放課後等デイサービス)

活動の想い

障害のある子どもたちの地域の中で健やかな成長と家族を応援したい！

対象

町内在住の障害児(家族)

活動内容

障害児の放課後と長期休暇の活動と居場所の提供。

直接の結果

子：場所、人に慣れ落ち着いて過ごすことができる。親：自分の時間が持てることにより余裕ができる。子の家とは違う側面を知る。

短期(～3か月)の成果

子：こじろうに行くことが楽しみになる。親：安心して送り出すことができるようになる。

中期(～1年)の成果

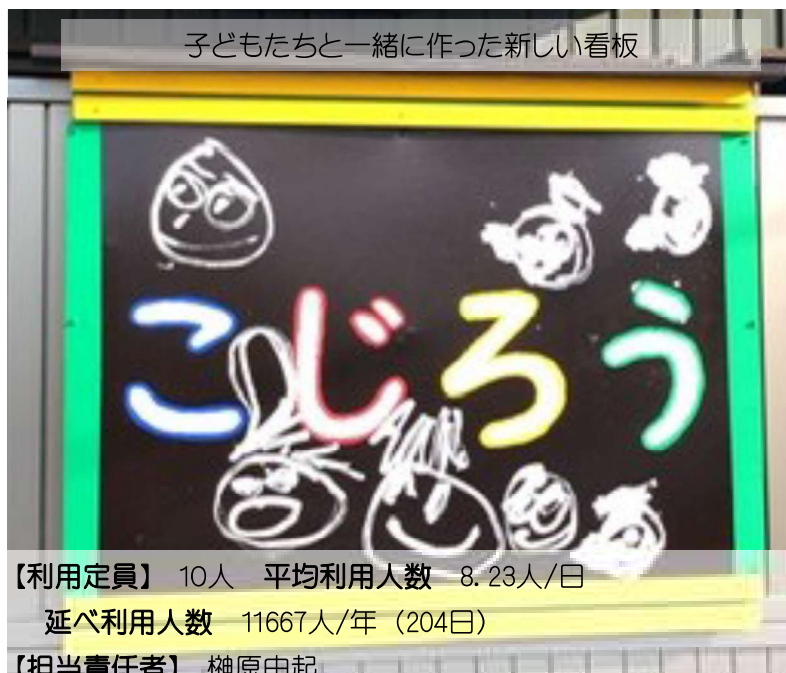
子：好き嫌いがはっきりして自分から活動を選択し参加できるようになる。親：スタッフと信頼関係ができる。

長期(～3年)の成果

集団で過ごし、社会経験を積み上げることにより必要なルールが身に付きよい人間関係が保てるようになる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



【利用定員】 10人 平均利用人数 8.23人/日

延べ利用人数 11667人/年(204日)

【担当責任者】 榊原由起

【活動概要】

障害のある子どもたちが放課後や長期休暇を安全に楽しく過ごすための場所です。子どもたちが主体的に活動できることを目標にしています。

【2020年度の目標】

卒業後夕方自宅で過ごすことができる人を目指して、どんなことができたらいいいのか、何ができそうなのかを考えながら活動を組み立てる。△未達成

また地域の人たちにもこじろうのことをもっと知っていただくために積極的に街に繰り出す。○一部達成

【活動実績・得られた成果】

自宅で過ごすことのできる人(屋内活動)を目指すとしたものの、利用者の人数、スタッフの数のバランスの悪さでなかなか活動が組めませんでした。

地域貢献活動はできなかったが、地域の子どもたちは意外とこじろうのことを知っていてくれました。こじろうの利用者さんが迷子になった時、近くにいた大人に「こじろうの子だよ」と教えてくれた小学生がいました。これは地域の公園や小学校の校庭によく遊びに行っていたからだと思われる。



合言葉は・・・少しがまんしたらいいことまってるよ！

⑥福祉移送ボランティア事業

【根拠事業】 自主事業 【担当責任者】 山本浩人

【事業概要】 必要やむを得ない場合の車による移送

【事業実績】

ほとんど実績はありませんでした。

⑦次世代育成事業（子育て支援事業）

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 瀧本智恵美

【事業概要】 託児等を会員同士の助け合いで実施する。

【事業実績】

実績はありませんでした。

⑧高齢者障害者に対する社会参加促進事業

喫茶「ゆめひろば」

直接の成果

町民がゆめひろばを利用し、食事やお茶を飲みながら話をする。

長期成果

町民会館に、食事をしたりお茶を飲みながら仲間との交流や出会いの場が確保される。

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 木村智子

【事業概要】

食の安全を意識した手作りの食事、飲み物を提供しています。また、住民の交流の場として快適な場所作りを大切にしています。

【2020年度の目標】

新型異なウィルス感染症状況を見つつ、安全に注意をして営業を行っていく。

【活動実績・得られた成果】 概ね週6日営業

緊急事態宣言も出る中、営業自粛を余儀なくされる期間もありましたが、ひるじろうランチづくりは継続して行いました。収束の状況下では通常営業を行うとともにイベントへの協力も行いました。

就労継続支援B

P12を参照 ひるじろうの活動の中で紹介。

フリースペース事業

【事業概要】

事業所のいろいろなスペースを利用して、地域の方が立ち寄ったり、ボランティアとして参加いただいたりする事業を提供しています。「こんな事ができるといいなあ。」や「こんなことで困っている。」「このくらいの手伝いはできるわよ。」などの声を大切にいろいろな活動を少しずつ行っています。

ゆめじろう茶屋 自主事業

活動の想い

地域で孤立することがないように住民同士のつながりを大切にする居場所を作りたい！

対象
町民

活動内容

地域住民が気軽に集える場所と活動の提供をする。

直接の結果

地域住民が日常的に茶屋に集い活動に参加する。

短期の成果

茶屋に集う者同士の交流が生まれ、新たな関係ができる。

長期の成果

茶屋を活用して地域住民の支えあいの活動が展開される。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 小藤あけみ

【事業概要】

年齢・性別・国籍問わず気軽に参加しています。

情報交換や物々交換、新しいつながりなど「つどい・つながる」場所です。

【2020年度の目標】

コロナウイルス感染症の終息を待って実施

「おじゃべりサロン」と「さをり織り」は継続して実施する。

その他の事業は継続について検討をする。 ×未達成

【活動実績・得られた成果】

コロナウィルスの感染予防のため、感染リスクの高い高齢者の集まりさをりなどは中止となりました。

未実施

⑨地域福祉啓発・研修事業

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

高齢者福祉および障害者福祉にかかわらず地域福祉に関わる活動やイベント等を開催しています。毎年9月の第1土曜日に行っている夏祭り(平成28年度からは龍宮まつり)、日本福祉大学と協働で実施するサービスマーケティング、武豊町との協働事業で始まったきのこプロジェクト、フードバンクちたの他、ゆめじろうくん(着ぐるみ)やコロツケカーによる地域イベントへの参加など多岐に及びます。平成30年度は、武豊町提案型協働事業を活用し子どもの居場所を考える『たけのこプロジェクト』を行いました。

たけのこプロジェクト (武豊町提案型協働事業)

活動の想い

美味しい顔と時間を共有することで困ったときにSOSが出せたり助け合える関係と地域力を作りたい。

【根拠事業】 武豊町提案型協働事業

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

子どもから大人まで困ったことがあったときに、地域で解決ができるよう、一緒に美味しい顔と時間を共有することでSOSが出せたり助け合える関係づくりをする。

【2020年度の目標】

コロナウィルス感染症の終息を待ち、月替カレーを再開し、地域住民とゆめじろうの並列のつながりづくりを進めていきます。

×未達成

【活動内容・得られた成果】

集まることが難しい中、実施することができませんでした。つながりを目的と実施している途上であったため、それによる大きな影響はありませんでした。参加者とは、まちで出会った際声を掛け合うことができました。

活動内容

月に1回、地域住民が集まり一緒にカレーを食べる機会を作り美味しい顔と時間の共有をすることで

直接の結果

地域住民が一緒に食事することで顔がつながる。

短期の成果

顔がつながり名前も覚え、気軽に声掛けられる関係になる。

長期の成果

困ったときにSOSが出せたり、助け合える関係ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

未実施

ゆめじろうくん・コロツケカーの出動(自主事業)

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】出口 晋

【事業概要】

啓発活動の一環としてキッチンカーの出動やゆめじろうくんがイベントに参加したりしています。

【2020年度の目標】

コロツケカー出動:コロナウィルス感染症の終息を待ち、地域イベントへの出店を行います。また、この間を利用して、火曜日夕方の定例販売の機会を活用し出店に対応できるスタッフの育成を行います。 ◎達成!

【活動内容・得られた成果】

イベントでの出店は、コロナウィルス感染症の影響もあり1件でしたが予想をはるかに上回る売り上げがありました。

一方、販売スタッフ2名、販売ボランティア1名の獲得ほか、通常出店を継続する中で2名の販売スタッフの育成ができました。

ゆめたろうスマイルマラソン応援(自主事業)

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】出口 晋

【事業概要】

平成25年度からは、「一緒に走ろう」という参加型の活動から転じ、「みんなで応援しよう」という町のイベントを地域住民と一緒に応援し盛り上げる活動を行っています。

【2020年度の目標】

ゆめたろうスマイルマラソン応援団:コロナウィルス感染症が終息し実施できる場合に備え、スマイルマラソン実行委員会とも連携し準備を進めます。協働事業の「ハイタッチランニング」企画とのコラボで、ハイタッチ(応援ゾーン)を設けるなどの企画提案も行っています。 X未達成

【活動内容・得られた成果】

スマイルマラソン自体が中止となり、活動は行いませんでした。

未
実
施

フードバンクプロジェクト（自主事業）

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】出口佳江

【事業概要】

セカンドハーベスト名古屋、サポート知多、日本福祉大学、常滑市社会福祉協議会と協力し、大規模ショッピングセンターや食品会社などからまだ食べられるのに捨てられてしまう食品をもらい受け、生活困窮者など必要としている人たちに届ける活動です。

【2020年度の目標】

引き続き生活困窮者の方や必要としている団体に必要な食品をお届けします。フードバンクの仕組みが継続されるよう、セカンドハーベスト名古屋への金銭的な支援についても積極的に行っていきます。昨年作成したマニュアルをもとに、団体内での問題の共有についても進めていきます。 ○概ね達成

【事業内容・得られた成果】

コロナの影響を受けることなく実施することができました。コロナ禍で食糧支援の必要な人がいると思われるが、その把握が十分にできませんでした。そのような状況の中、住民の人からの食料提供も複数ありました。

サービスラーニング（日本福祉大学との協働事業）

【根拠事業】日本福祉大学との協働事業

【担当責任者】出口 晋、西川百合

【事業概要】

地域福祉サポートちたを通じて実施する日本福祉大学との協働事業。「フィールド実践演習」という科目の中で実施され、NPO法人の活動を通して実習することで、学生の「市民性」を育み、自らの意思をもって関わっていく力を養っていくことを目的にしています。

【2020年度の目標】

学生が市民活動や福祉事業の実態を知る入口として、学びの場を提供するとともに、第三者に団体の活動や社会課題の解決の実践を伝える方法の学びの場とする。今年度はコロナウィルス感染症の影響も踏まえ、実施期間に幅を持たせ実施可能な形での実施の形をとります。 ○概ね達成

【事業内容・得られた成果】

コロナ禍で現場での実習はできなかったが学生とZoomや電話などでのやり取りをしながらなんとか実施することができました。しかし、いつもと違う状況の中で最後まで続けられなかった学生もいました。

きのこプロジェクト（武豊町提案型協働事業自主事業）

【根拠事業】 自主事業（前：提案型協働事業）

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

自然公園一帯の活性化活動

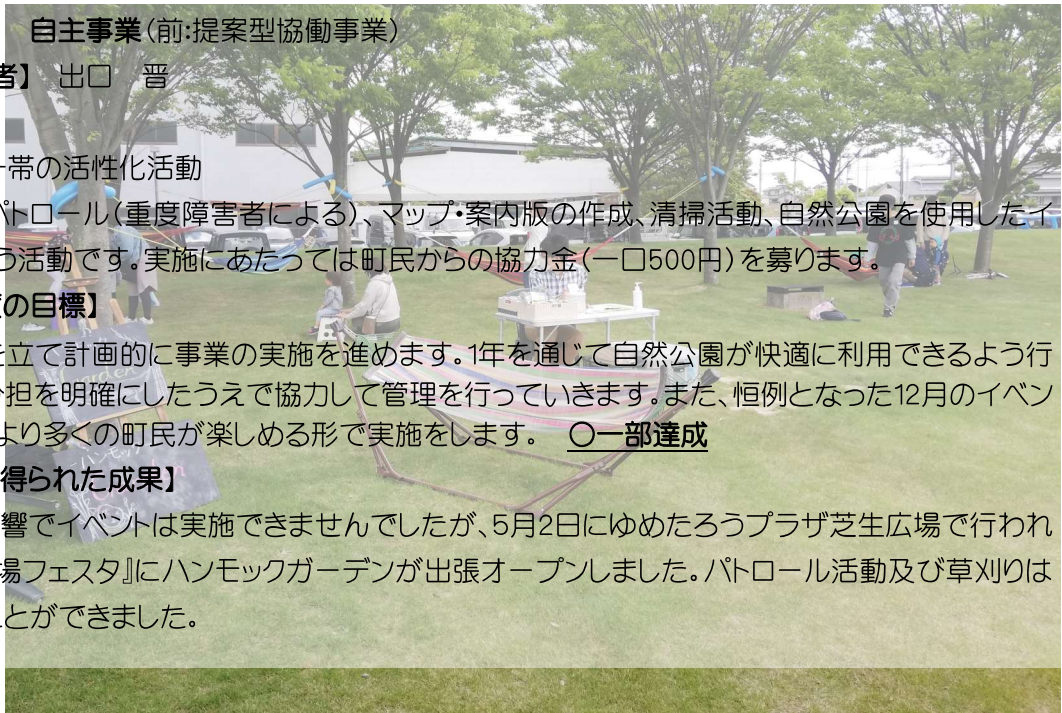
自然公園パトロール（重度障害者による）、マップ・案内版の作成、清掃活動、自然公園を使用したイベントを行う活動です。実施にあたっては町民からの協力金（一口500円）を募ります。

【2020年度の目標】

年間予定を立て計画的に事業の実施を進めます。1年を通じて自然公園が快適に利用できるよう行政と役割分担を明確にしたうえで協力して管理を行っていきます。また、恒例となった12月のイベントについてもより多くの町民が楽しめる形で実施をします。 ○一部達成

【活動内容・得られた成果】

コロナの影響でイベントは実施できませんでしたが、5月2日にゆめたろうプラザ芝生広場で行われた『芝生広場フェスタ』にハンモックガーデンが出張オープンしました。パトロール活動及び草刈りは実施することができました。



龍宮まつり

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】出口 晋

【事業概要】

盆踊りや運動会など地域のイベントがすくなってきた富貴地区において地域の人々が参加しつながらあえるお祭りの開催。

【2020年度の目標】

龍宮まつり：コロナウィルス感染症終息のめどが立たない中、今年度の実施については難しいですが、次年度実施に向けて地域関係者との協議の場を持ち準備を行っていきます。 ×未実施

【活動内容・得られた成果】

コロナウィルス感染症が収束を見せない中、実施及び地域関係者との協議の場も持つことができませんでした。

未実施

ゆめにてい

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】西川百合

【事業概要】

昨今地域力の低下と言われる中、ゆめじろうが地域に中で果たす役割について話し合っています。プロジェクトとして始動する前には「困った人発見隊」という名で活動してきました。ゆめじろうを知ってもらい、困った時に相談できる場所や人とのつながりがあることで、少しでも安心して生活ができるのではないかと考え、手始めとして「市」を開くことにしました。

【2019年度の目標】

新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、現時点での開催の見通しは立てられずにいますが、これまでの開催でつながった人との関わりを大切にしながら、「ゆめ市」がもつ本来の目的を達成できるように、まずは「ゆめじろうのことを多くの人に知ってもらう」「ゆめじろうへいろんな人に足を運んでもらう」を実現できるように、開催できる日がくることを願って準備をすすめていきたいと思っています。 ×未実施

【活動内容・得られた成果】

実施することはできませんでした。

未
実
施

⑩短期介護事業（ショートステイ）事業

【根拠事業】自主事業・地域生活支援拠点（体験的宿泊・緊急一時的宿泊）

【担当責任者】山田祐輔

【事業概要】

本人及び家族の緊急時の宿泊支援及び将来へ向けての宿泊体験の場と機会の提供を行う。

【2020年度の目標】

体験宿泊についてはレスパイト目的での利用ができない現状で、重度の方を十分に支えるショートステイが地域にないため、体験的宿泊の在り方を南部3町と協議会で検討していく。◎達成！
感染症などが広がってきた際には、利用者の安全を最優先し利用の制限も検討しながら実施していく。緊急時は予測できないことだが、利用者様・家族に安心して使っていただけるよう、継続的に受け入れ体制を整えていく。○一部達成

【活動内容・得られた成果】

協議会の社会資源開発部会（地域生活支援拠点ワーキンググループ）において、事業者が積極的に事業を実施できるようサービス単価の見直し作業を3町行政担当者と共に行った。

一方、ゆめじろうにおける各種サービス利用者に対して、地域生活線拠点事業の周知と利用意向アンケートを実施した。その際、地域全体として本事業が実施されていくよう、利用ルールの周知と他事業所への勧奨も行った。

当事業所内で安定的に事業が実施できるよう、スタッフへ向けての協力要請と説明会、体制整備を行い、コロナ禍においても体験的宿泊事業をサンワコーポとひるじろうで計3回（3泊6日）実施することができた。

⑪障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

居住サポートいえじろう(共同生活援助)



ご近所関係良好なホーム！

緑区民として生活しています。

活動の想い

障害のある人の親から離れて暮らす挑戦を応援したい！

対象

町内在住の障害者

活動内容

障害者のための家庭的で社会とのつながりのある住まいの提供。

直接の結果

グループホームでの生活を始めるとともに地域行事への参加、ボランティアの方との交流会に参加し始める。

短期(～3か月)の成果

グループホームでの生活に慣れ、地域の方やボランティアの方との交流にも慣れる。

中期(～1年)の成果

グループホームを利用する日が増え、ボランティアの方と一緒に過ごすことができる。

長期(～3年)の成果

安定した生活をグループホームで送る。地域の方に存在を知ってもらう。ボランティアの方と一緒に外出ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



コロナ禍の楽しみ、ステイホームでバーベキュー

【根拠事業】共同生活援助 定員8人

【担当責任者】 山本浩人

【活動概要】

利用者さんが「ただいまー」と安心して帰宅できるお家です。障がいのある方が地域の中で自分らしく生活が送られるようサポートしています。

【2020年度活動目標】

- 1.定員8名に対して利用者数7名という状態が続いているので、利用者募集を行う。 **◎達成！**
- 2.地域生活支援拠点事業の利用者数増加 **○一部達成**

【活動内容・得られた成果】

延べ利用数2200人/年

新規利用者が2020年11月より体験利用を開始し、徐々に日数を増やし2月から本格利用となり8名となりました。土日の利用をされる利用者の人数が増加したことにより、昨年度に比べ数字が増加しました。目標にあげていた地域生活支援拠点については、新型コロナウイルスによる利用お断りを行っていたこともあり、実績は伸びず結果的に2名(5日)となりました。

新型コロナウイルスの感染状況を見極めつつも、地域生活支援拠点の機能強化のため、障害関係部署で開催する地域生活支援センター会議にて受け入れと体制づくりについて検討を行いました。